

大橋川周辺のまちづくりを考える市民意見交換会

平成18年7月豪雨についての
「感想・意見一覧」(付箋記入内容)

[この資料について]

この資料は、大橋川周辺まちづくり検討委員会の主催で平成18年9月10日(日)に、くにびきメッセにおいて開催された「大橋川周辺のまちづくりを考える市民意見交換会」において、平成18年7月豪雨に関して出された意見・感想・質問等を整理し、各テーマごとに一覧にしたものです。
行政・河川管理者からのコメントを付記します。

大橋川周辺のまちづくりを考える市民意見交換会で出された平成18年7月豪雨についての「感想・意見一覧」(付箋記入内容)

No	テーマ	付箋記入内容	行政・河川管理者のコメント	
1	推進論・慎重論	わが家は床下浸水。道路上50～60cm、3日間続きました。バイク。ゴミ乾燥機がダメになりました。3点セットを強力にすすめて下さい。	出来るだけ早く大橋川の改修計画を策定したいと考えていますが、大橋川は国際文化観光都市松江市の中心市街地を流れる川ですので、背後のまちづくりと一体的に整備する必要があると考えています。	
2		今回の水害を踏まえて「大橋川改修事業計画」の精度を高めてもらいたい。		
3		一日も早く大橋川拡幅工事を。(橋の架け替えはしなくても)		
4		大橋川広くすること。		
5		道路が水没し交通機関がマヒ。大変支障を感じた。すみやかに大橋川を拡幅してほしい。		
6		47年豪雨の経験が生かされていない。57年事業中止はなぜか？		大橋川改修に伴う流量増による中海の水位上昇を懸念する鳥取県側の要請により、昭和57年に矢田地区の用地買収の途中で事業の中断を余儀なくされ、その後は上流のダムおよび中流の放水路の整備を先行する形になりました。大橋川改修については、平成13年に測量、調査、設計の実施について、鳥取県の了解が得られ測量等に入り、平成16年12月に大橋川改修の骨格となる「大橋川改修の具体的内容」の公表に至ったところです。
7		今回の豪雨により大橋川改修推進の方は勢いづいたことと思う。また、被害にあわれた方々には大変お気の毒と思いますが、街の形を著しく変えることには賛成できない。		平成16年12月に公表した「大橋川改修の具体的内容」は、治水、環境、まちづくりが調和する計画としています。この計画は、堤防の法線や高さなど水の流れる器の部分について示したものであり、堤防の形状や大橋川周辺(背後地)の土地利用等については、平成17年11月に設置した「大橋川周辺まちづくり検討委員会(景観専門委員会)」において、現在検討を進めているところです。その過程においては、住民の皆様へ積極的に情報提供をしていくほか、基本計画策定の節目には広く市民の意見をお聞きした上で検討していきます。
8		弓浜地域への影響を全く検討しないですめるべきではない。		中海の水位は、大橋川改修を行っても上流のダム・放水路により宍道湖への洪水の流入量を減らしますので、洪水時の水位は3点セット無しの状態に比べて上昇しない計画としています。また、大橋川改修による影響については、現在行っている環境調査のなかで現状について把握のうえ、数値シミュレーションを実施し公表していくことになります。
9	改修計画	大橋川の拡幅にすぐつなげることを心配した。ダム、神戸川への放流をはじめにすすめるべきと思った。	今回の洪水では、3点セット整備後においても松江の水位は1.4mであり、これは大橋川において越水が起こる水位と同程度であるため、ダム・放水路のみの場合には、一部で越水が発生する可能性があったと思われます。なお、今回宍道湖の最高水位は、2.11mでしたが、想定している規模の雨が降った場合の宍道湖の水位は3.68mとなります。この場合、ダム・放水路ができていたとしても宍道湖の水位は約2.7mとなり昭和47年豪雨の水位も上まわるので、大橋川改修は必要だと考えています。	
10		今回の水害をキッカケに「拡幅ありき」が当たり前のように大いばりで歩いている。おかしい。二点セット(上流の)完成後ではないのか。		
11		今回の水害の客観的な経過分析によると 1.内水による浸水 2.排水管からの逆流による浸水となっているが、3.大橋及び天神川からの越水は最終段階であった。従い、3点セットにこだわらず、すでに工事が行われている2点が完成していた場合の具体的なシミュレーションを公開すべきである。2点が完成していれば川からの越水はなかったらうとの専門家の分析がある。		今回の洪水では、3点セットの効果について簡易な計算モデルを用いて速報として計算しています。3点セットの場合においても松江の水位は約1.4mであり、これは大橋川において浸水が始まる水位と同程度であるため、ダムと放水路のみの場合には一部浸水被害が発生する可能性があると考えられます。なお、今後、詳細な計算モデルを用いて様々なケースについて検討していく予定です。
12		斐伊川・神戸川の治水3点セットができていれば効果があつたとされていますが、上流ダムと放水路の2点セットではどうだったのか。参考までに知りたい。		
13		今回の水害は内水の逆流の被害があつたが、3点セットとの関係はどうなのか。明らかにされるべきではないか。		
14	代替案	大橋川の水は鹿島へは流せないのか？	別紙資料、「大橋川改修における代替案について」を参照してください。	
15		寛文年間に東流したのを元の神戸川～大社浜に現在よりも大量に流せば現在の東流化が不安。また、佐太川の拡大化もある。		
16	その他	遊水地の不足、消失。	*	
17		官地をなくす事。	*	
18		銘橋松江大橋は絶対に保存すべし。	松江大橋は、計画高水位に対して必要な桁下高が確保できていません。このため、洪水時に橋桁や橋脚に流下物が引っかかり堤体へ危険を及ぼしたり、流れを阻害する恐れがあります。また、拡幅により橋長が不足します。したがって、架け替える必要がありますが、大橋は市民のみならず観光客から親しまれ愛されてきた橋ですので、架け替えにあたっては、本委員会や地域の皆様の意見を踏まえ、松江のまちに相応しいものとなるよう景観専門委員会で検討を進めていきます。なお、今後、昭和55年に建設省出雲工事事務所が設置した「松江大橋の歴史に関する研究会」の報告等も参考に議論を深めていただきたいと思います。	
19		斐伊川の灘分で計画高水位を67cmも超過した原因は何でしたか。疑問です。	流出土砂による河床高の上昇や河道内にある樹木等の影響が考えられますが、現在、詳細については調査中です。	

大橋川周辺のまちづくりを考える市民意見交換会で出された平成18年7月豪雨についての「感想・意見一覧」(付箋記入内容)

No	テーマ	付箋記入内容	行政・河川管理者のコメント	
20	浸水パターン	S47の大水害と浸水地域が変わっていない。	昭和47年豪雨に比べ、総雨量が少なく宍道湖の水位が約40cm低かったことから今回の浸水面積は少なかったが、市街地の中心部は地盤が低いため浸水しました。 なお、今回の浸水については、国、県、市の関係機関において、浸水メカニズム、当面の浸水対策を検討しているところです。今後、できることから対策を実施していきます。	
21		今回の水害は大橋川からの浸水は一部で特に低いヶ所が数ヶ所あった。		
22		低地に浸水したところの多くは下水道からの逆流で発生していた。水が堤を越える前にすでに浸水した。		
23		自宅前道路が溝があふれ浸水しました。(10cm)前晩はあまり降雨がなかったのになぜか、どこからきた水がわかりませんでした。		
24		向島水門、くにびきメッセ横の水門が大橋川の増水により京橋川等に逆流した。改良すべきではないか。		
25		大橋川(剣先川)の増水により道路を越える心配をしていたが、メッセ側の排水口の逆流により床下浸水した。		
26		天神川の堤防が低いところがあり、市内に流れた。土のうでもやれば多少時間をかせげる。		
27		私は今回の18年7月の水害を直接受けたものです。中央小学校前のマンションの地下駐車場とエレベーターピット内の浸水でした。大橋川もさることながら、天神川の増水も大変でした。		
28		宍道湖の水位が長時間であったため内水排除に時間(3日位)を要した。中川、比津川の早期改修を望む。		
29		内水対策。明確化が必要		
30		北堀川、天神川からの浸水が多かった。		
31		市内の河川の流水がよくないこと。		
32		内、外水、治水で様々な水害に対応。		
33		豪雨の後から天神川の水位が高いままなのですが、なぜでしょうか？		今回の豪雨後、大橋川の水位は7月27日頃には、平水位に下がりましたので、天神川の水位もそのころには平水位に戻ったと考えられます。
34		7月の洪水の場合、資料7頁、8頁に示されている通り、浸水地域は大橋川下流部の狭い川幅が主な原因と考える。		大橋川で特に川幅の狭いところは、下流部の朝酌川合流点付近及び上流部の大橋～新大橋付近であり、平成16年12月に公表した「大橋川改修の具体的内容」では、拡幅することとしています。
35	松江市街地の浸水に大海崎堤防、森山堤防が影響していないか。	今回の出水時の中海最高水位は、7月18日21時の0.78mであり、大橋川及び宍道湖の最高水位発生の前日であったことから、中海の水位が松江市街地の浸水に影響しているとは考えていません。		

大橋川周辺のまちづくりを考える市民意見交換会で出された平成18年7月豪雨についての「感想・意見一覧」(付箋記入内容)

No	テーマ	付箋記入内容	行政・河川管理者のコメント	
36	全般	S47以降洪水対策が行政としてどのような対策がとられていたか。特に橋南地区において。	昭和47年豪雨の教訓から、松江市では公共下水道の整備を市の主要施策と位置付け、事業を推進してきました。また、宍道湖の計画堤防高にあわせた、白湯公園や県立美術館の湖岸整備等を行ってまいりました。	
37		対応おそい。		
38		大変な経験でした。対応がおそかったのでは？		
39		災害弱者を早めに保護・支援。		
40	情報管理・提供	市民への情報提供量不足に尽きる。	市民の皆様への迅速、的確な情報提供及び災害対策を実施するため、松江市が設置する災害対策本部に機能的に活動する班を設置し体制を強化するとともに、関係機関との連携の強化を図ります。降雨状況や水位等の情報については、国や県によりインターネット等で情報提供しています。今後、インターネットやケーブルテレビ等によるわかりやすい情報提供について、検討していきます。	
41		状況速報が不足していた。(被害などの)		
42		豪雨状況(各地の水位、現在・今後の雨量、等)の情報開示の遅れがあった。また、それをまとめている組織の姿がみえなかった。		
43		大橋川の水量の情報の不足。タイムリミットの情報の報告がほしい。		
44		水位(宍道湖、大橋川)の状況をグラフに示して、マールテレビ等に出してほしい(豪雨中に)。そうすれば対応がしやすいのでは。		
45		直接被害はなかったが近隣地区の降雨状況を知りたいと思う。		
46		質の高い情報で最善の防災対策を。		
47		昭和町、大正町周辺の浸水について、18日夜の段階である程度の出水が予測されたわけで19日朝にしかるべき指示があっておれば被害を少なくできた。		
48		松江駅周辺の浸水は2～3日間続いたが、事前に浸水状況を予測できなかったのか。		
49		我家は床下浸水でした。周りの道路や橋の浸水状況がわからなかったので早くて確かな情報が入ると良かったです。		
50		南田町(下三枚橋近く)では町内会も含め行政から何の指示、連絡がなかった。あれでいいのか。		
51		河川水位の予測値を調査、シュミレーションして住民に知らせる。具体的には上流部の降雨パターンの如く河川の上昇度合いがわかる。各地区の交差点の地盤高を明示しておく効果的な時系列的水位の変化が把握できる。現時点での水位との関係。避難誘導の判断に役立つ。		大橋川は、中海、宍道湖の水位差により流れます。中海、宍道湖の水位は、日本海潮位、気象(気圧、風等)、塩分遡上の影響を受けるなど、水位変動が複雑であるため、現状では、即時的な水位予測は困難です。なお、時系列的な浸水状況を把握するために、現在、各地点の地盤高の調査を行っており、避難誘導に役立てたいと考えています。
52		水害の被害を小さくするための情報提供(通行止めなど)が不足していた。		今回の豪雨では道路情報の伝達に課題があったことから関係機関からなる「県道路情報検討ワーキング会議」を設け、対策について検討しているところです。そのワーキング会議の検討受け、災害時の道路情報の伝達には報道機関の協力が不可欠なことから、道路管理者と報道機関で災害時の情報提供のあり方について検討しているところです。
53		車内で交通情報が得られなかった。		
54		交通事情の速報。		
55		どこを通れば目的の場所に行けるのか等全体像がわからなかった。情報が少ない。		
56	7月19日の午後、出雲市から松江市に向かって車を運転していたところ、宍道湖温泉付近で道路表示板にくにびき大橋、新大橋の通行止めの表示があった。ラジオ等での報道がなかったのではなぜ交通渋滞しているのか全くわからなかった。			
57	今回の7月豪雨で大橋川の増水によりくにびき大橋南側松江駅附近、その他の道路が浸水した。通行止めになりくにびき大橋、新大橋、大橋)交通渋滞した。交通情報の伝達に問題があったと思う。			
58	交通情報不足。			
59	道路・交通	朝酌より職場へ通う交通手段の大変さに47年豪雨の経験が生かされていたらとつくづく思いました。		
60		19日午後、松江米子往復に難儀した。(車が動かないので徒歩で帰宅)		
61		重要な橋の通行止めによる交通網の整備不足。緊急車両等の対応		
62		くにびき道路の通行止めには驚いた。		
63		浸水した道路を車が走り、波によって玄関の戸がこわされたヶ所が多数(6戸)あった。(交通規制の措置)		
64		治水とつながる(橋を含む)道路交通網不備。(教訓が生かされていない)	道路の路面高を高くし交通網を確保することは、沿線の宅地等への出入り等周辺への影響が非常に大きく困難だと考えています。したがって、大雨に対し都市機能を維持し安全安心なまちづくりを実現するためには、治水事業を進めていくのが最も現実的な方法であると考えています。	

大橋川周辺のまちづくりを考える市民意見交換会で出された平成18年7月豪雨についての「感想・意見一覧」(付箋記入内容)

No	テーマ	付箋記入内容	行政・河川管理者のコメント
65	土のう等	大橋川浸水した場合、土のう積みは一部国交省で実施されたが、基本的には国交省と考えてよいか。	土のう積みなどの水防活動は、市町村長(水防団)が行うことと水防法で定められています。
66		行政の対応が遅い。駅前に大型土のうが配置されたのは、ほとんど水がひいた状態であった。何の役にも立たずに翌日撤去された。	市民の皆様への迅速、的確な情報提供及び災害対策を実施するため、松江市が設置する災害対策本部に機能的に活動する班を設置し体制を強化するとともに、関係機関との連携の強化を図ります。
67	行政対応	東本町4丁目の大橋川岸の浸水は約60cmの堤防のかさ上げがあれば防げたはず。47水害よりこれまでなら「部分改良」がされてないのはおかしい。	部分的に対策を講じてもさらに水位が上がった場合浸水が防げないので、大橋川改修の具体的な計画を策定し手戻りが生じないように計画的に進めていく必要があります。なお、今回の浸水については、国、県、市の関係機関において、浸水メカニズム、当面の浸水対策を検討しているところです。今後、できることから対策を実施していきます。
68		7月の浸水した低い部分の場所は調査されたと思うので、その部分は至急に応急処置をしておくべきですね。(東本町とか、JR駅周辺とかの)	
69		河岸堤が低い部分の50cm程度のかさ上げをすべきだ。	
70		大橋と新大橋の中央部分が低く水がつかえているのでとりあえず至急道路を高くしてほしい。	
71		今回の水害によってS47水害以来被害がなかったことが偶然だったことが明白になった。熱帯化が進む中、今後は今年のような水害の可能性はある。特に市駅周辺の緊急対策はどうするのか？	
72	道路の排水溝より逆流して浸水するのでそれを防止する弁を設置すべきである。	今回の浸水については、国、県、市の関係機関において、浸水メカニズム、当面の浸水対策を検討しているところです。今後、できることから対策を実施していきます。	
73	その他	水害後の対応(行政、市民、ボランティア)が不備であった。(連携の不備やボランティアの数等)	市民の皆様への迅速、的確な情報提供及び災害対策を実施するため、松江市が設置する災害対策本部に機能的に活動する班を設置し体制を強化するとともに、関係機関との連携の強化を図ります。
74	市民意識	自宅が高台にあるため、被害を全く受けず、身近な問題としてとらえられず、危機感が薄かったのが正直なところ。まわりにも大橋川改修について全く知らない人も居るなど、市民間でも温度差の大きい課題ではないかと感じています。	従来から大橋川コミュニティーセンターを中心に勉強会や各種イベントなどを通じ市民の皆様様に情報提供しており、今後とも、より多くの市民の皆様様に情報が届くよう情報提供の方法等に工夫して参りたいと思います。
75		水害にあった地区(住民)とあってない地区(住民)との温度差がひろがったのではないかと感じています。	
76		地域自らが判断して対応できる仕組みをつくる必要があるのでは。	
77		住民の理解と協働。	
78	感想	市の中心部が豪雨(400mm程度)で浸水する。松江市が雨に弱いまちであることを実感した。	*
79		友達の家のあたりが水でいっぱいになっていて心配だった。(黒田あたり)	*
80		大変だった。(法吉あたり)	*
81		黒田町の人は大変そうだった。	*
82		3回目の水害であったが、思ったほどでもなかった。	*
83		災害はいつ起きるかわからない。	*
84		松江に来て2度被害にあった。	*
85		県や市の中枢が存在するような地域が一番被害を受けている地域の近くであるというのは問題だと思いました。	*
86	会の進め方	豪雨の被害状況を先に説明された方がよかったのでは？来所者がわかっているとは限りません。	*
87	その他	松江駅南口でお店をしていますが、全面浸水しました。大変でしたが、ぜひ一つ聞いてみたいことがあります。質問できないでしょうか？	*
88		湖内の港が水没したため増水中、船の係留を調整しなおした。水害後、水没した漁具などの回収を実施した。	*
89		水稻の冠水 収穫量の減少	*